

# 2018年度事業報告書

2017-22年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

国立大学法人 名古屋工業大学  
ダイバーシティ推進センター





ダイバーシティ推進の重要性は、転換期にある現在の社会のあらゆるセクターで次の時代を拓く重要な鍵の一つとして認識されるようになりました。人間の暮らしの向上を常に志向する工学にも、新しいパラダイム模索の中で多様な価値観やニーズに自在に応えうる、柔軟で感性溢れる思考や発想が強く求められています。こうした状況の中、工学の始まりから今日に至るまで、常に少数派であり続けた女性は、これまでにない視点から変革の風を起こす大きな可能性を秘めた存在として注目され、女性研究者の活躍に期待が高まっています。しかし、状況の理解と変革への努力は広がってはいるものの、依然として工学系では、女性研究者の割合が全ての研究分野で最も低く、その増加スピードも他分野に比べて遅れをとっているのが現状です。意欲のある優れた女性研究者を工学分野にいざない、その活躍を支援して研究力を向上させる環境整備や意識変革が急務です。

平成26年、名古屋工業大学は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」（3ヶ年）の採択を受け「男女共同参画推進センター」を発足させると同時に、全学体制の女性研究者支援に着手しました。平成28年度末までの3年間に、多様な女性研究者支援の仕組みを立ち上げるとともに、それらを軌道に乗せ、学内の意識改革を加速させました。さらに、第1期の事業完了後は、直ちに成果を踏まえた継続事業の提案を行い、平成29年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（一般型）」（6ヶ年）の採択も実現しました。これに伴い、「男女共同参画推進センター」を「ダイバーシティ推進センター」へと再編し、従来の仕組みを強化するとともに、新たな取り組みも多数開始しました。また、センターの公式英語名称として、NITech Center for Diversity & Inclusionを採用し、多様性の推進だけでなく、多様な人材の個々の特質を最大限活かすことで組織全体の力を高める「インクルージョン」の方針も明らかにしています。

現在進行中の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（一般型）」の事業は2年目を完了し、いよいよ6ヶ年事業の折り返し点となる令和元年度（2019年度）に入りました。こうした概況の中、皆様のさらなるご理解とご支援をいただくため『平成30年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（一般型）報告書』を作成いたしました。ご高覧いただき、本学の女性研究者支援について忌憚のないご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。工学の未来を拓く女性研究者の育成にお力添えをよろしくお願いいたします。

2019年6月

名古屋工業大学学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）

藤岡伸子

# 目次

ご挨拶	1
<b>I. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進</b>	
1 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言	6
2 ダイバーシティ推進センター	7
3 ダイバーシティ研究環境の実現に向けて	
(1)ダイバーシティ推進委員会	8
(2)多様性人材育成プログラムNITech CAN	9
4 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組	10
5 産学連携による取組	
(1)産業論	12
(2)ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾	12
(3)日本工学教育協会「工学教育賞」受賞	13
<b>II. 2018年度事業実施報告</b>	
1 意識啓発	
(1)名古屋工業大学イクボス宣言	16
(2)トップセミナー	17
(3)ダイバーシティ推進シンポジウム	17
2 研究者支援	
(1)研究支援員制度	18
(2)女性研究者メンター制度・メンター研修	18
(3)女性が拓く工学の未来賞	19
(4)女性研究者研究促進制度	20
(5)リスタート支援制度	21
(6)NITech CAN「女性研究リーダー養成塾」	22
(7)ウェブサイト「名工大の女性研究者～ダイバーシティが工学の未来を拓く～」の開設	23
(8)女性研究者・技術者の会 ランチミーティング	23
(9)ライフイベント支援	24

3	次世代育成	
	(1)NITech CAN「工学女子キャリア形成塾」	26
	(2)次世代萌芽インセンティブ	27
	(3)全学に向けたダイバーシティ教育	27
	(4)女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」	28
	(5)女子学生団体「彩綾～SAYA～」	29
	(6)中高生の理系選択支援	29
4	情報発信	
	(1)「OG人財バンク・鶴桜会」パンフレット	30
	(2)「共に創る未来へ～名工大の女子学生・女性研究者からのメッセージ～」	30
	(3)「名古屋工業大学女性研究者メンター制度　メンターハンドブック」	31
	(4)ニュースレター	31



# 1. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進



1 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言



2 ダイバーシティ推進センター



3 ダイバーシティ研究環境の実現に向けて

(1)ダイバーシティ推進委員会

(2)多様性人材育成プログラムNITech CAN



4 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組



5 産学連携による取組

(1)産業論

(2)ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾

(3)日本工学教育協会「工学教育賞」受賞

# 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

ダイバーシティ推進センターは、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備を最優先課題としており、その実現のための意識変革に積極的に取り組んでいます。

2017年11月に「名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言」を公開し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けて全学体制で臨んでいます。

## 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

2017年11月22日

名古屋工業大学は、「ものづくり ひとづくり 未来づくり」という教育理念を目標に掲げ、グローバルに活躍する「実践的工学エリートの養成」をめざしています。社会のあらゆる分野でダイバーシティの価値が認識され、その推進と活用が求められている現在、本学は、目標達成を確実にするための最優先課題として、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備とそれを実現するための意識変革を掲げます。

本学は、多くの優れた女子学生を育成し価値ある技術者として産業界へ輩出すること、そして多くの女性研究者を工学コミュニティの自立した一員として招き入れその活動を弛まず支援することを工学におけるダイバーシティ推進の基盤と位置付けます。その基盤の上に、本学は長年培ってきた産業界との連携を含めた戦略的なダイバーシティマネジメントを通じて、多様な人材活用〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現をめざします。

本学における〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉とは、人種、性別、年齢などの違いだけでなく、宗教、母語、文化・社会的背景などの内面的な差異をも含めた、多様な違いを受け入れて活かすことにより、組織全体の強靭さを高め、さらにはイノベーション創出に繋げることをめざすものです。

これらの理念・目標を踏まえ、名古屋工業大学はダイバーシティに基づくオープンイノベーションの実現に貢献するため、以下の基本方針を掲げて積極的に活動することを宣言いたします。

### 基本方針

1. ダイバーシティ推進の視点に立った教育・研究環境の整備を行う
2. ダイバーシティ推進とその活用の観点から、全構成員の労働環境の整備を行う
3. 〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現に向けた意識変革に努める

名古屋工業大学男女共同参画推進センターは、2014-2016年度文部科学省人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の成果が評価され、2017年度より「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に連続して採択されました。

これを受けて、新たなダイバーシティ推進事業をスタートさせるため、男女共同参画推進センターを発展的に解消し、2017年10月1日にダイバーシティ推進センターを開設しました。ダイバーシティ推進センターは、従来の女性研究者支援の取組をさらに深化・拡大する「多様性人材育成プログラムNITech CAN」を構築し、研究者支援と次世代育成を主軸とする取組を幅広く継続的に実施していきます。



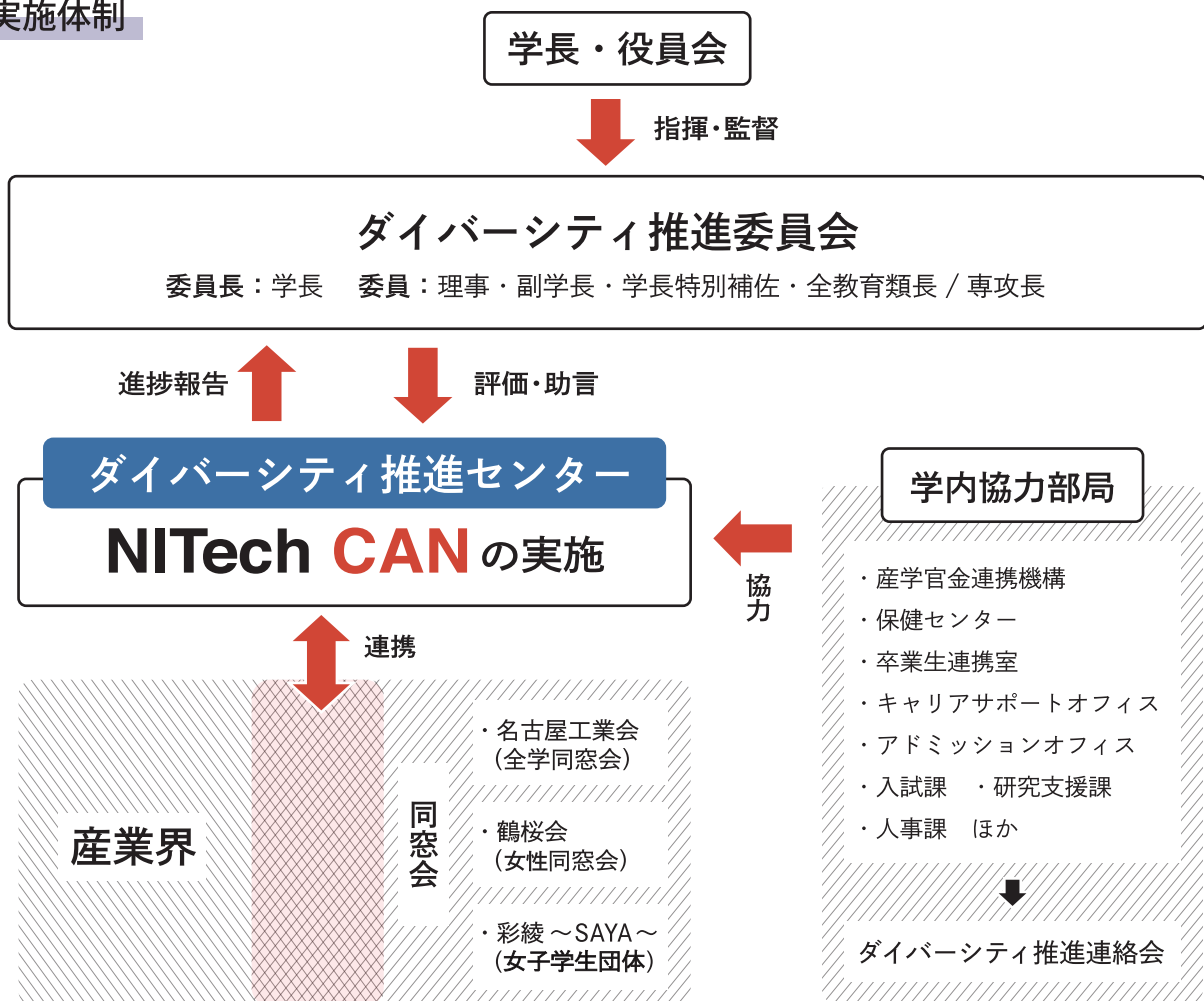


## (1) ダイバーシティ推進委員会

「ダイバーシティ推進委員会」は、学長を委員長とし、すべての理事、副学長、学長特別補佐、全教育類長、専攻長を委員に含める組織であり、ダイバーシティ推進センターが実施するすべての事業について評価と助言を行います。学長が統括する全学横断的な組織が「多様性人材育成プログラムNITech CAN」に恒常的にかかわり、効果的な実施を図る体制を実現しています。

さらに、産学連携の豊富な実績を活かし、学内のみならず、地域の優良企業と連携し、女性研究者および技術者のネットワーク形成に積極的に取り組んでいます。NITech CANの実施においては、長年連携を積み重ねて来た地域の産業界、行政など一層の連携を図るほか、産業界で活躍するOB・OGの同窓会はもとより、現役女子学生の全学的組織「彩綾～SAYA～」とも連携しています。

## 実施体制

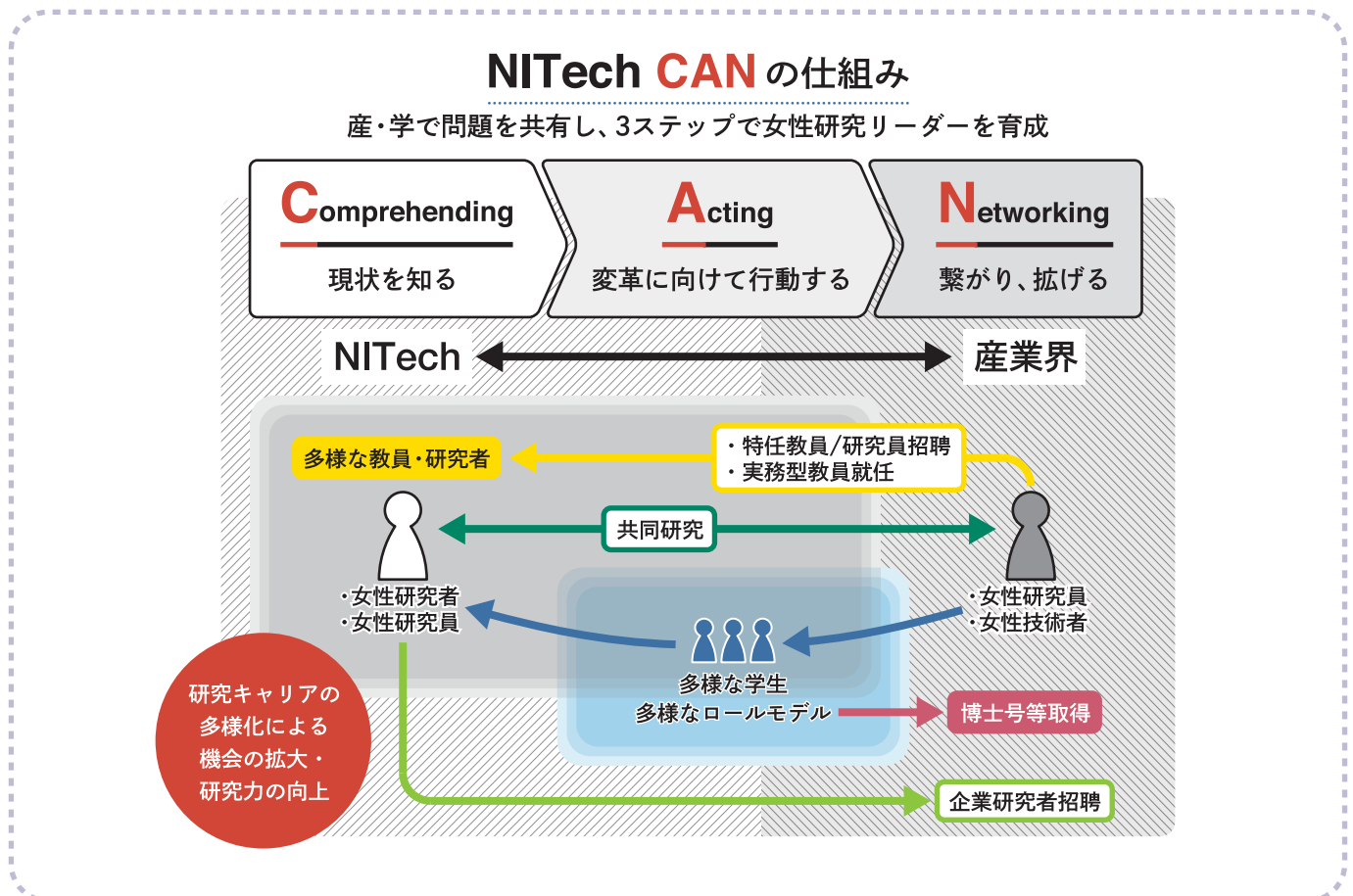


## (2) 多様性人材育成プログラム NITech CAN

多様性人材育成プログラム NITech CAN とは、本学が長年培ってきた産学官連携の実績と、前事業「女性研究者研究活動支援事業」の成果を統合し、工学分野のダイバーシティを高めるために必要な、「知る＝Comprehending、行動する＝Acting、繋がり、広げる＝Networking」の3つのミッションを産・学が一体となって遂行するしくみです。

大学と産業界が一体となり、学生から研究員、研究者、研究リーダーまでの全てのステージの女性工学人材に対して、協力して育成と支援を行うことで、女性工学人材の流動性・機動性を高め、女性研究者の増加につなげることを目指します。企業には、さまざまなレベルで研究・開発に携わる女性が存在します。こうした高いポテンシャルを持った工学系の女性たちが、本学との共同研究を行ったり、博士課程に社会人として入学し、学位を取得し、研究能力を高めて研究業績を積むことで、学部→大学院進学→研究者という従来のルートとは別の女性研究者育成の道を拓くことができます。

工学を志す女性にとって、研究キャリアへの多様な道を拓くことは、活躍の場や方法において多様な選択肢と可能性が広がることにつながります。多様な未来を思い描ける分野は、次世代を担う女子中高生にとっても、魅力的な進路となり得ます。私たちは、「知る・行動する・繋がり、広げる」の3つの指針を産業界と共有し、一体となってそれを遂行し、ダイバーシティ研究環境を地域産業界とともに構築していきます。



次世代育成

- step 1. **C**omprehending  
 step 2. **A**cting  
 step 3. **N**etworking

研究者支援

イノベーション創出の鍵となるダイバーシティ豊かな人材育成を目指し【次世代育成】と【研究者支援】を2つの重要ミッションとして掲げます。

地域産業界・同窓会との協働を通じ、これらを **C・A・N** の3つのステップで着実に遂行します。

## C Comprehending 現状を知る

### 工学女子キャリア形成塾

研究キャリアへの誘導

### 全学に向けたダイバーシティ教育

正課科目にダイバーシティ教育を整備

### 女性研究リーダー養成塾

共同研究・競争的資金獲得支援

### メンター制度の拡充

メンター研修の実施

## A Acting 変革に向けて行動する

### 中高生の理系選択支援

企業・自治体との連携

### スタートアップ研究費付与

大学院生への研究動機付け

### 特任研究員等の常勤教員登用

ポジティブアクション

### 研究促進インセンティブ付与

大型科研費、共同研究奨励

### リスタート研究費の付与

キャリアを中断した研究者の復帰支援

### ライフイベント支援の拡大

研究員等に支援範囲を拡大

## N Networking 繋がり、拡げる

### OG人材バンクの拡充

企業研究者、技術者、院生も参加

### 大学間連携会議の実施

所属、職位、世代を超えた情報交換会

### 女性研究者データベース公開

共同研究に向けた女性研究者情報の集約と公開

### 女性研究者・技術者の会活動

連携企業研究者・技術者とも連携

### プロジェクト特任女性教員の増員

連携企業から招聘



### 女性が拓く工学の未来賞

優れた研究業績を挙げることが期待される学内の若手女性研究者を表彰することにより、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の発掘と育成を図っています。



### 女性研究者・技術者の会

女性が学内で分散・孤立した状況に陥りがちである状況を打破するため創設された女性研究者・技術者の会では、ランチミーティングを通じて交流を深めています。



### 女性同窓会・鶴桜会

2016年、全学同窓会「名古屋工業会」の支援により鶴桜会が設立されました。年次交流会では、学長を交えて、専門分野を越えた交流が進んでいます。



### 彩綾 ～SAYA～

女子学生団体「彩綾～SAYA～」は、学科・学年をこえて繋がり、名工大の女子らしく今も未来も輝ける場を作るため、2014年10月に設立されました。



### ダイバーシティ教育

イノベーションにおけるダイバーシティの重要性を学ぶダイバーシティ・男女共同参画関連科目を正課科目として開講しています。



### 女性研究者データベース

工業大学ならではの研究シーズを持つ本学の女性研究者と産業界および地域社会の連携を促進するため、名工大の女性研究者の代表的な研究を公開しています。

## (1) 産業論

本年度より、全学必修科目である「産業論」にダイバーシティ教育が導入されました。「産業論」は産業と技術の関わりを学びながら、技術者の責任と経営感覚の習得を目的とする科目です。2年次の全学生が、産業界で活躍する講師から、ものづくりの場におけるダイバーシティの重要性を学びました。社会工学科では、アビームシステムズ株式会社執行役員の谷口千佳氏が、女性技術者としてのご自身の歩みと若手技術者の育成についてお話しされました。また、生命・応用化学科、物理工学科、情報工学科、電気・機械工学科では、株式会社デンソーよりセンサー開発の技術者である小林由佳氏と、同社OBで長年人材育成やダイバーシティ施策に携わってこられた鈴木康利氏が、女性技術者のキャリア形成上の課題とシニア活躍推進の取組についてお話しされました。受講生の多くが、ワークライフバランスや各世代ごとの役割の差異を踏まえて技術者としてのキャリア形成を考える視点を習得しました。



## (2) ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾

8月28日～10月2日（全3回）、ダイバーシティ推進センターとイーブルなごや（名古屋市男女平等参画推進センター・女性会館）指定管理者アイ・コニックスグループ共催により「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」（第4期）を実施しました。

本養成塾は、女性の長期的な就労と専門性を生かしたキャリア形成を可能にする支援の基盤構築を目指して開催するもので、趣旨に賛同する中部圏の有力企業に勤務するリーダー候補の女性技術者が受講しています。講座は、キャリア・コンサルタントによるキャリアデザイン講座と名古屋工業大学教員による品質管理、組織運営の講義で構成されており、受講者は長期的なキャリアデザインと現場で生きる管理スキルを学ぶことができます。第4期を迎えた今年度は、中部圏、関東圏の企業23社から推薦を受けた24名の女性技術者が受講しました。最終日に開かれた卒塾式では、受講生それぞれが今後の目標に向けた行動宣言をし、塾長の藤岡センター長より修了証が授与されました。講義でのグループワークや異業種の仲間との交流により、受講生は共に刺激し合い、成長していきます。

本養成塾の内容と卒塾生の意欲向上については、参加企業から高い評価を得ており、本養成塾の受講が上位職登用への指標の一つに取り入れられていることが複数の参加企業から報告されています。地域産業界の女性活躍を推進する産学連携の取組として、今後も本養成塾をより充実させていきます。



日 時 : 2018年8月28日～10月2日 (全3回)  
 会 場 : イーブルなごや  
 (名古屋市男女平等参画推進センター・女性会館)  
 対象者 : 製造業に勤めている女性技術者  
 参加者 : 県内外企業23社から24名の女性



2018年度「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾 第4期」の実施内容

実施日	内 容
2018年8月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリアデザイン講座1「自己分析① 未来の私をイメージする」</li> <li>・ ロールモデルとの座談会</li> <li>・ キャリアデザイン講座2「自己分析② 私らしく働き続けるためには」</li> </ul>
2018年9月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダー養成講座</li> <li>①「品質」をテーマにものづくりのマネジメントを考える</li> <li>②「ポカミス」をテーマにものづくりの安全を考える</li> <li>③「コミュニケーション」をテーマにものづくりの職場を考える</li> </ul>
2018年10月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリアデザイン講座3</li> <li>「キャリアプラン～リーダーとしての今日からの行動計画～」</li> <li>・ 行動宣言と修了証書授与</li> </ul>

### (3) 日本工学教育協会「工学教育賞」受賞

「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」の活動が評価され、公益社団法人日本工学教育協会第22回(2017年度)「工学教育賞」業績部門を受賞しました。

2018年8月に日本工学教育協会第66回年次大会にて表彰されました。





## II. 2018年度事業実施報告

### 1 意識啓発

- (1)名古屋工業大学イクボス宣言
- (2)トップセミナー
- (3)ダイバーシティ推進シンポジウムの開催

### 2 研究者支援

- (1)研究支援員制度
- (2)女性研究者メンター制度・メンター研修
- (3)女性が拓く工学の未来賞
- (4)女性研究者研究促進制度
- (5)リスタート支援制度
- (6)NI Tech CAN「女性研究リーダー養成塾」
- (7)ウェブサイト「名工大の女性研究者  
～ダイバーシティが工学の未来を拓く～」の開設
- (8)女性研究者・技術者の会 ランチミーティング
- (9)ライフイベント支援

### 3 次世代育成

- (1)NI Tech CAN「工学女子キャリア形成塾」
- (2)次世代萌芽インセンティブ
- (3)全学に向けたダイバーシティ教育
- (4)女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」
- (5)女子学生団体「彩綾～SAYA～」
- (6)中高生の理系選択支援

### 4 情報発信

- (1)「OG人財バンク・鶴桜会」パンフレット
- (2)「共に創る未来へ  
～名工大の女子学生・女性研究者からのメッセージ～」
- (3)「名古屋工業大学女性研究者メンター制度 メンターハンドブック」
- (4)ニュースレターの発行



# 1 意識啓発

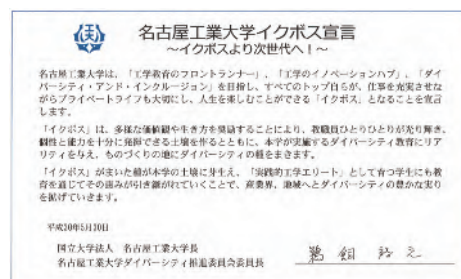
## (1) 名古屋工業大学イクボス宣言

### 名古屋工業大学イクボス宣言 ～イクボスより次世代へ!～

名古屋工業大学は、ダイバーシティ推進宣言の理念を、より具体的、実践的な行動指針として示すため、2018年5月30日に、愛知県内の大学に先駆け「名古屋工業大学イクボス宣言」を行いました。

役員および教職員管理職で構成する全学的な組織であるダイバーシティ推進委員会を代表して、委員長(学長)が署名しました。

教職員のワークライフバランスに考慮した働きやすい環境を促進することにより、イノベーション創出に繋がるとともに、教育機関である大学の使命として、イクボスの精神を学生への教育に反映させ、ひいては産業界、地域へと広げていきます。



#### 「イクボス」とは 「NPO法人ファザリング・ジャパン」 HPより

職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のことを指します。対象は女性管理職・男性管理職です。

## 働き方改革セミナー <イクボスから広げるワークライフバランス>

「名古屋工業大学イクボス宣言」の実践として、また、教職員のワークライフバランスに考慮した働きやすい環境の実現を目指す「働き方改革」推進のため開催されました。

内閣府地域働き方改革支援チーム委員（兼務 株式会社東レ経営研究所主任研究員）の渥美由喜氏より、ダイバーシティ推進の理念や働き方改革を成功に導くマネジメント等について講演いただき、働き甲斐のある職場作りや具体的なイクボス実践術等のアイデアに、受講者は熱心に耳を傾けていました。講演後の意見交換では、次世代の育成方法や部下の評価について等ワークライフバランスに考慮した働き方について質疑応答が行われました。



日時：2019年2月13日(水)  
会場：名古屋工業大学4号館2階 第3会議室  
対象：学長ら役員、全部局長、管理・監督教職員  
参加者：45名

## (2) トップセミナー

### < ダイバーシティが工学の未来を拓く >

ダイバーシティ推進委員を対象に、トップセミナー「ダイバーシティが工学の未来を拓く」を開催しました。日本IBM執行役員の小池裕幸氏を講師に迎え、テレワーク等の柔軟な労働環境整備の取り組みや、技術系女性のキャリア開発についてご講演いただきました。

セミナー後半では、国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主管の山村康子氏より、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの課題」と題し、全国の研究機関における動向やアメリカにおける女性研究者の活躍促進についてお話しいただきました。

講演後の意見交換では、ダイバーシティ推進における働き方や職場環境の問題、解決策について活発な質疑応答が行われました。



日 時：2018年5月30日(水)

会 場：名古屋工業大学本部棟 会議室

対 象：学長ら役員、全部局長、管理・監督教職員

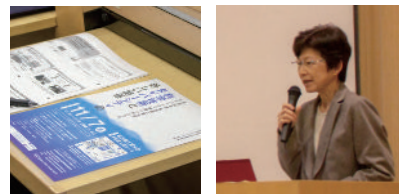
参加者：33名

## (3) ダイバーシティ推進シンポジウム

### 「科学技術とダイバーシティの新しい関係」

ダイバーシティ研究環境の実現に向けて、重要なが未だ普及が進んでいない視点を共に学び、科学技術分野の女性活躍推進のための課題を共有する機会として「ダイバーシティ推進シンポジウム」を開催しました。基調講演の講師に国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主管の山村康子氏をお迎えし、「工学系大学のダイバーシティ推進：その重要性と課題」について文部科学省の女性研究者支援事業開始後の変化について、データを示しながらお話しいただきました。

続いてパネルディスカッション「科学技術とダイバーシティの新しい関係」では、豊橋技術科学大学副学長（男女共同参画担当）中野裕美氏より「無意識の偏見と工学系女性のキャリア形成」、本学ダイバーシティ推進センター長藤岡伸子教授より「ジェンダード・イノベーションという新しい視点」という2つの話題提供がありました。この2つのトピックを踏まえて、藤岡伸子センター長のファシリテーションのもと、山村康子氏、中野裕美氏にご登壇いただき、イノベーションにおけるダイバーシティ推進の重要性と課題の克服について討論を行いました。



日 時：2018年11月7日(水)

会 場：名古屋工業大学4号館1階ホール

対 象：教職員・学生・一般

参加者：81名

## (1) 研究支援員制度

本制度は、男女を問わず出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のために十分な研究時間が確保できない教員等に研究支援員を配置することで生活と研究業務の両立を図れるように支援していくものです。

研究支援員の身分はパートタイマーとし、研究支援員として雇用できるのは本学の大学院に在籍する学生、本学の卒業生です。「学生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり19時間以内、「卒業生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり30時間以内です。

### 利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員。

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要介護者または要支援者がいる者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

## (2) 女性研究者メンター制度・メンター研修

今回は、講師に名古屋大学高等教育研究センター准教授中島英博先生をお迎えし、大学におけるメンタリングの論点、および10年以上にわたる名古屋大学におけるメンター制度の実践についてお話しいただきました。メンティのニーズに寄り添う名古屋大学のメンター制度の実際とともに、メンターが備えるべき4つの質問をする力とコーチングの基本的な考え方など、実践的なメンタリングの技法を学びました。受講者との対話を引き出す形で研修が進められ、メンター同士の意見交換や実例の共有にもつながる貴重な機会となりました。

日 時：2019年3月11日(月)

会 場：名古屋工業大学11号館3階 交流サロンi-cafe

対 象：本学の教員

参加者：9名



本研修の開催に合わせて、『メンターハンドブック』を発行いたしました。このハンドブックは、メンター教員に求められる役割とメンティ教員のニーズをQ&Aおよびインタビュー記事によって紹介し、メンタリング活動の具体的な指針を示すものです。女性研究者だけではなく、研究者のメンタリングに共通する論点を盛り込んでいます。

### (3) 女性が拓く工学の未来賞

ダイバーシティ推進シンポジウムの冒頭で、2018年度「女性が拓く工学の未来賞」の授賞式が行いました。この賞は、優れた業績を収める若手女性研究者を表彰することにより、さらに研究意欲を高め、将来の学術研究を担う女性研究者の育成を図ることを目的とするものです。

本年は、出産・育児というライフイベントを経ながら、長年にわたり優れた研究業績を上げている情報工学専攻武藤敦子准教授が優秀賞を受賞しました。また、今後の活躍が期待される若手研究者に贈られる奨励賞を、社会工学専攻中居楓子助教が受賞しました。



#### 女性が拓く工学の未来賞 受賞者の声



武藤 敦子 准教授  
情報工学科  
知能情報分野

女性が拓く工学の未来賞優秀賞を頂き、誠に光栄に存じます。多くの女性研究者が、自身の研究キャリアを継続させるために結婚・出産などのライフイベントに躊躇し、また、その後のワークライフバランスの維持に困難を感じている方も多く、私が研究と育児を両立できていることは、周囲の皆さまのご理解・ご支援の賜物と感謝しております。特に、共同研究者の先生には、研究・教育へご指南頂くだけでなく、育児との両立に対して日頃よりご配慮を頂いております。また、ダイバーシティ推進センターの研究支援員配置などのご支援にも深く感謝申し上げます。今回頂きました賞の名に恥じぬよう、今後もより一層研究・教育に励み、工学を志す女子学生の目指す姿となれるよう日々精進してまいります。この度は、誠にありがとうございました。



中居 楓子 助教  
社会工学科  
環境都市分野

この度は、女性が拓く工学の未来賞をいただきありがとうございます。改めて、自分を研究者としてのスタート地点に立たせてくださった京都大学在学時の先生方、長年フィールド研究でお世話になっている高知県黒潮町の方々に感謝したいと思います。昨年まで、私は津波避難シミュレーションを使った地域コミュニティの津波避難計画づくりに関する研究に取り組んでいました。研究室でのシミュレーションとフィールドワークを行き来するという研究スタイルでしたが、学生時代には、どちらも中途半端で学術的な成果が得られないことへの焦りがありました。しかし、現在落ち着いた研究環境に身を置く中で、長期的な視点で研究を考えられるようになり、この研究スタイルを維持する先に面白いことが見えてくるのではないかと、思えるようになりました。名工大の素晴らしい環境に感謝しつつ、これからのよい成果を出せるように頑張りたいと思います。

## (4) 女性研究者研究促進制度

女性研究者が、受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得の研究提案を行い、実現に至る例は全国的に未だ少数にとどまっています。本学では、この現状を変えるために、意欲ある女性研究者を対象に研究促進インセンティブを与えて研究を支援する「女性研究者研究促進制度」を2017年度に発足しました。

学内の女性研究者研究促進制度委員会の選考により、2018年度は9名の応募者から7名の女性研究者が採択され、研究費が支給されました。

### 対象

- ・准教授、助教にあつては、2019年度の学内研究推進経費（戦略的研究、将来を見据えた研究、若手研究）の申請、もしくは、2019年度内の外部資金申請（導入）を前提とした申請であることを条件とする。
- ・将来の外部資金獲得、研究力の向上等に寄与する研究シーズを持っている、准教授、助教、特任教員、特任研究員、研究員等とする。

### 採択者の声

#### 「嫌気性呼吸細菌を用いた環境浄化技術の開発」

社会工学専攻 環境都市分野 准教授 吉田奈央子

本助成は、塩素化エチレン汚染環境の生物学的環境修復（バイオレメディエーション）研究における2件の外部資金獲得という具体的な成果につながりました。現在はさらに1社との共同研究契約について協議を進めています。また、本助成で得た研究成果をもとに、特許出願を予定しており、出願後のライセンス契約について企業との協議を進めています。

#### 「グリーンエネルギーを考慮した電力市場の長期的な需給確率計画問題」

社会工学科 経営システム分野 准教授 孫晶

現在、世界各地で気候変動対策と環境保護を目的として、グリーンエネルギーを利用する取組が脚光を浴びています。本研究では、発電量に占めるグリーンエネルギーの発電量の割合を考慮した上で、多期間での電力会社と需要家のコストを最小化する確率計画モデルを提案しました。提案したモデルを用い、各発電方式の最適な発電量の組み合わせを求め、さらに、変化する環境価値の制約に対応してグリーンエネルギーへの最適な投資タイミングの算出することができました。

これらの研究成果を発信するために、APIEMS2018の国際会議、及び日本経営工学会の研究大会において複数の研究発表を行い、さらに、発展した研究成果をAJMSA国際論文誌に論文掲載ができました。

### 「光応答性タンパク質の構造ダイナミクスの解析」

しくみ領域（生命・応用科学専攻神取研究室） 研究員 吉住玲

本制度の助成により、2018年9月にカナダ・トロントで行われたInternational Conference on Retinal Proteins (ICRP2018)においてポスター発表を行いました。これまで、ロドプシンにおいて多量体構造はあまり取り上げられていませんでしたが、ICRP2018では多量体構造に着目した発表も多数あり、今後ロドプシンの研究において一分野となりうることを感じました。また、ポスター発表だけでなく、5分間の口頭発表も行い、ポスターセッションにおいては、日本人のみならず多数の外国人研究者と議論し、メカニズムについて理解を深めることができ、ロドプシン研究者との共同研究を進める可能性が広がりました。

## (5) リスタート支援制度

リスタート研究費は、出産、育児や介護等のライフイベントのため、やむを得ず研究者としてのキャリアを一時中断し、その後研究活動に復帰した場合に、研究費を助成もしくは研究環境を整備して、復帰時の研究活動の促進や負担軽減を図り、研究活動を支援することを目的とします。

2018年度より新たな研究者支援制度として、1件が採択され、研究費が支給されました。

### 対象

1. 出産、育児や介護等のライフイベントのため、過去3年以内に3ヶ月以上の研究活動の中断をした女性の准教授、助教、特任教員及び特任研究員とする。
2. 上記に該当する男性の准教授、助教、特任教員及び特任研究員にあつては、その配偶者が大学等の女性研究者である場合に限る。
3. その他、上記条件と同等と認められる場合

### 採択者の声

#### 「複合物理解析に基づく高周波ばく露安全性評価」

つくり領域（電気・機械工学専攻平田研究室） 特任助教 小寺紗千子

本制度の支援によって、複合物理解析の作業効率化のために、スペックの高い作業用PCを購入しました。

これにより、複数台のワークステーションへのリモート接続やデータ整理、文献調査等、PCに負荷がかかった場合でもスムーズな動作を確保することができるようになりました。

## (6) NITech CAN「女性研究リーダー養成塾」

### 第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」

女性研究リーダーの育成を目的とした研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」を開催しました。第1回目の今回は、外部資金獲得のための導入編として、教員・研究員・研究キャリアを目指す大学院生を対象に実施し、13名が参加しました。本学における外部資金の取扱いについての説明の後、産学官金連携機構の沖原理沙URAより、「外部資金と長期的な研究戦略について」と題し、研究費獲得の必要性、やりたい研究を外部資金獲得へと結びつける方法について講義がありました。セミナー後半は、理工工学専攻の呉松竹准教授より、豊富な研究費獲得の実績を基に、研究費獲得に向けて押さえるべきポイントと説得力のある申請書の書き方について講義がありました。

参加者からは、外部資金獲得のための基本的知識から申請書の書き方までの具体的な指導があり、有意義な内容だったと好評を得ました。



日 時：2018年6月27日(水)  
会 場：名古屋工業大学11号館3階  
交流サロンi-cafe  
対 象：本学の教員  
参加者：13名

### 第2回研究力向上セミナー「若手研究者のための特許入門」

2回目の研究力向上セミナーでは、特許出願の入門講座を実施しました。初めに、キシタ特許事務所弁理士の樹下浩次先生より「研究を特許にするための考え方」について、主に法律的視点からご講演いただいた後、JSTさきがけ研究者・名古屋工業大学客員准教授角田聡先生に、基礎研究を特許申請に結びつける方法について、ご自身の特許申請の経験をもとにお話いただきました。

最後に、産学官金連携機構と研究支援課の職員より、特許申請をする際の学内手続きと相談窓口の紹介がありました。学部生から教員、職員と幅広い職域の18名が参加し、講演終了後には、活発な質疑や意見交換が行われました。



日 時：2018年9月19日(水)  
会 場：名古屋工業大学11号館3階 交流サロンi-cafe  
対 象：本学の教員  
参加者：18名

## (7) ウェブサイト「名工大の女性研究者 ～ダイバーシティが工学の未来を拓く～」の開設

本学の女性研究者の研究を広く周知し、活躍の可能性を拡大することを目的として、「ダイバーシティが工学の未来を拓く一名工大の女性研究者」のウェブサイトを開業を2018年10月より本格的に運用を開始しました。本学の女性研究者と産業界および地域社会の連携を促進するため、本学産学官金連携機構の協力のもと、女性研究者データベースとして発展させていきます。ぜひご覧ください。



名工大の女性研究者データベース  
<https://women-academics.nitech.ac.jp/>



## (8) 女性研究者・技術者の会 ランチミーティング

「女性研究者・技術者の会」は、所属部局において圧倒的少数であり、孤立した状態にある女性研究者のネットワーク形成を目的として2015年度に発足しました。昨年度までは年に3回のランチミーティングを開催してきましたが、回を重ねる中で単なる交流を越え、キャリアアップを望む女性研究者の不安やニーズを的確に把握できる場へと成長しました。学長、理事、専攻長等をゲストに迎え、各回の冒頭では、女性研究者・技術者が自身の研究紹介等の話題提供をしています。通常直に接することがほとんどない若手女性研究者と大学上層部との懇談の機会を設けた結果、女性研究者の研究意欲とプレゼンスの向上にもつながる多機能で効果的な場であることが明らかとなり、2018年度からは年5回の開催へと取組を拡大しました。



### 実施概要

- |       |           |                            |
|-------|-----------|----------------------------|
| 【第1回】 | 5月17日(木)  | 「生きる場のデザイン」                |
| 【第2回】 | 8月7日(火)   | 「NITech CAN女性研究者データベースの紹介」 |
| 【第3回】 | 10月18日(木) | 「植物から魚類まで生態系の回復」           |
| 【第4回】 | 12月4日(火)  | 「食とコミュニティ」                 |
| 【第5回】 | 3月5日(火)   | 「津波避難シミュレーションによる防災」        |

会場：  
 名古屋工業大学11号館3階  
 交流サロンi-cafe  
 開催時間：  
 12:05-12:55



## (9) ライフイベント支援

### 1. ベビーシッター利用の補助制度

本学は、2015年度に「名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項」を制定し、本学教職員及び学生の育児と仕事、研究の両立のために三種類の支援をしています。

#### ①内閣府のベビーシッター派遣事業の割引券利用

子ども・子育て支援法（2012年法律第65号）第59条の2第1項に基づき、公益社団法人全国保育サービス協会が発行する「ベビーシッター派遣事業」の割引券を利用するものです。

##### 割引の内容：

サービス利用時に割引券を提示することで、一日（回）あたり2,200円の割引が受けられます。  
※利用料金が2,200円以下の場合は利用できません。

利用可能枚数：一日（回）につき家庭1枚まで（一か月24枚、一年280枚まで）

利用対象者：本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります）

##### 利用対象となる子ども

- ・乳幼児又は小学校3年生までの児童
- ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

##### 利用の条件

- ・利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労継続することが困難な場合
- ・利用者の家庭内における保育や世話並びに家庭と保育所との送迎である場合
- ・公益社団法人全国保育サービス協会が認定しているベビーシッター事業者の利用に限る

#### ②大学契約ベビーシッターサービス「千種シッターサービス」

本学独自の契約により本学の教職員及び学生は、会員料金で大学近隣の保育施設「千種シッターサービス」を利用できます。また、本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は厚生年金の被保険者）への利用料の補助等も行っています。

利用対象者：本学の教職員及び学生

##### 割引の内容：

会員料金でベビーシッターサービスを利用できます。  
なお、本学に勤務する教職員（厚生年金の被保険者である非常勤職員を含む）は、申請により一家庭につき一日（回）あたり700円の補助が受けられます。

##### 利用対象となる子ども：

乳幼児又は小学校3年生までの児童及び健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

##### 利用可能サービス

- ・シッタールーム利用
- ・シッター派遣（※ベビーシッター派遣事業割引券を利用することはできません）

### ③病児病後児保育支援制度

本学教職員が養育する児童が病気にかかり、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合に、一時的にベビーシッターサービスによる病児・病後児保育を受け、業務の遂行を可能とする支援制度です。

割引の内容：登録料の全額及び利用料金の半額を大学が負担します。

<利用料金>

7:00 ～ 9:00 2,500円/時間

9:00 ～ 18:00 2,000円/時間

18:00 ～ 19:00 2,500円/時間

※前営業日の18:00以降の連絡は1,000円/時間の加算、市内通勤費加算850円/回等があります。

※最低利用時間は、2時間です。

利用対象者：本学教職員

利用対象となる子供：本学教職員が養育する小学校3年生までの児童

サービスの内容

- ①病児保育：病気にかかっているが、感染性の強い病気ではなく当面の症状の急変が認められない場合においての一時的な保育
- ②病後児保育：病気の回復期であるが、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合等においての一時的な保育

## 2. 保育室・一時保育サービス

ダイバーシティ推進センター交流サロンi-cafeには小規模の保育室があり、育児休業中の職員のセミナー出席や休日出勤する教職員のために一時保育サービスを行っています。

2018年度は、鶴桜会交流会、センター試験、健康診断時に利用がありました。本学で開催される学会やセミナーの際にもご利用いただけます。



## (1) NITech CAN「工学女子キャリア形成塾」

## 英語論文セミナー

講師にエルゼビア・ジャパン株式会社高石雅人氏をお迎えし、国際ジャーナルでアクセプトされやすい英語論文の書き方について出版社の視点からご講演いただきました。

大学院生、研究者、URAと幅広い立場の12名が受講しました。効果的な言い回しの具体的な説明や、執筆を助けるアプリケーションの紹介など、英語論文初心者にもすぐに役立つ講義内容が大変好評で、「これまで独学で習得してきたが、セミナーで体系的に学べてよかった」という感想や「継続的に実施してほしい」という要望が寄せられました。

日 時：2018年9月12日(水)  
 会 場：名古屋工業大学11号館3階 交流サロンi-cafe  
 対 象：本学大学院生、研究者、URA  
 参加者：12名



## 英語論文・プレゼンテーションのためのオーダーメイドセミナー

ネイティブスピーカーの科学者の講師から具体的なアドバイスを受けられ、また受講者の発表や投稿に合わせて受講日を選べる大変好評なセミナーです。受講者は事前に相談内容を伝え、原稿に事前に目を通してもらえるため、きめ細やかな指導を受けられます。

全10回開催され、受講者の論文やプレゼンテーション原稿を題材に、単語の選び方、文法、アブストラクトの書き方、論文の構成、図表タイトル付け方、プレゼンテーションの技法について講義が行われました。

受講者からは、なぜその表現を選ぶとよいのかという具体的な指摘をもらえたり、自分では普段選ばない表現や単語の用法を教えてもらった、聴衆に伝わりやすい表現方法を習得できた、という声が寄せられました。

会 場：名古屋工業大学11号館3階 交流サロンi-cafe

【第1回】2018年6月4日(月)

【第2回】2018年6月7日(木)

【第3回】2018年6月25日(月)

【第4回】2018年7月5日(木)

【第5回】2018年7月19日(木)

【第6回】2018年7月23日(月)

【第7回】2018年10月5日(金)

【第8回】2018年10月26日(金)

【第9回】2019年1月18日(金)

【第10回】2019年1月25日(金)



## (2) 次世代萌芽インセンティブ

学部から大学院博士前期課程への女子学生の進学者に比べて、将来の女性研究者候補である大学院博士後期課程への進学者は、極めて少ないのが現状です。工学分野のダイバーシティ推進のためには、博士後期課程への進学を支援することが急務であると考え、女子学生に対して、進学への不安を取り除くとともに、誇りを持って博士後期課程へ進学できるよう後押しするため、「次世代萌芽インセンティブ」を新設しました。

2018年度は1名が採択されました。

**対象** 本学大学院博士前期課程在学中の女子学生で、本学大学院博士後期課程への進学に意欲がある者。

### 採択者の声

#### 生命・応用化学専攻 博士前期課程2年 前田真衣

日本レオロジー学会・日本バイオレオロジー学会「第66回レオロジー討論会」において「逆可塑化ポリカーボネート中の低分子ダイナミクスの異方性」と題して研究発表を行いました。

討論会参加により、分子ダイナミクスの調査に関する様々な知見を得るとともに第一線の研究者の方々と議論を行うことができました。

## (3) 全学に向けたダイバーシティ教育

2018年度は、3科目のダイバーシティ科目を正課内で開講しました。2年次全学必修科目「産業論」では、第8回目にダイバーシティセミナーを実施し、企業で活躍する実務型教育（女性技術者）による、若手技術者採用・育成の現状や、事業部内で立ち上げた女性活躍ワーキンググループで把握された課題についての講義を実施しました。また、2・3年次共通科目「男女共同参画社会論」では、ジェンダー論の基礎知識と、戦後から近年の女性活躍推進に至るまでの社会政策、労働市場の展開を中心に学んでいます。さらに、社会工学科3年次専門科目「ダイバーシティ・マネジメント」では、学生が毎回ディスカッションとプレゼンテーションを重ねながら、多様な価値観や文化的背景を持つ人々の協働により生まれるイノベーションの可能性、その一方で生じる対立を協調に導くマネジメントについて、身近な事象を例にとりながら自分の問題として捉える視点を身につけていきます。

これら3科目の開講により、学部生が在学中に必ず一度はダイバーシティの視点に触れるとともに、通年にわたってダイバーシティ関連科目を選択できる体制が整いました。



## (4) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」

### 1. 女性同窓会「鶴桜会」

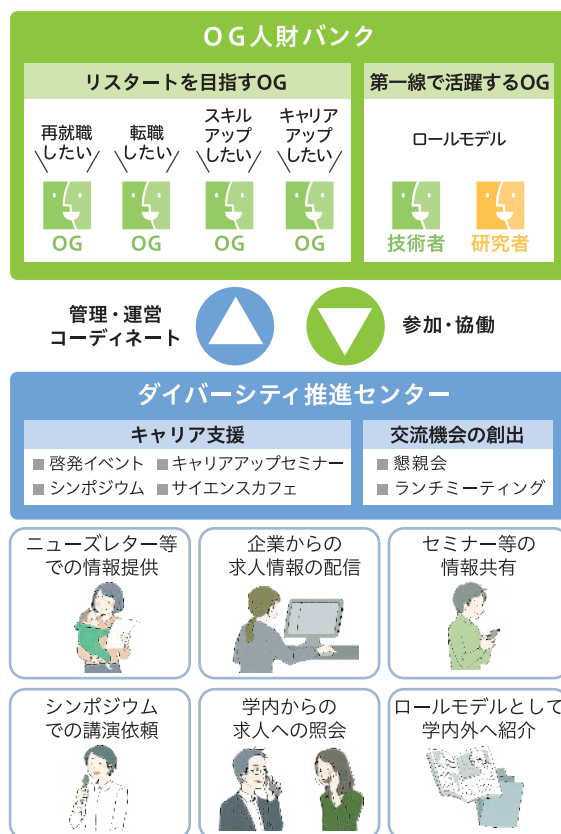
鶴桜会は、「年に一回会いましょう」を合い言葉に、女性卒業生や現役女子学生が交流でき、縦と横の繋がりを持てる場として2016年に設立した女性同窓会です。

2018年10月27日、第3回年次交流会を開催しました。本学ホームカミングデーと同日の開催で、OGや現役女子学生と学長、名古屋工業会理事長ほか関係者44名が参加しました。華やかな雰囲気の中で歓談を楽しみながら、トヨタ自動車株式会社で技術系管理職として活躍するOGのミニ講演、参加者の自己紹介、グループ座談会が行われ2時間30分にわたる交流会は盛況のうちに終了いたしました。これからも世代を超え、専門分野を超えて「名工大で学んだ女性」という新しい繋がりによる交流コミュニティとして輪を拡げていきます。



### 2. 「OG人財バンク」

2014年に発足した「OG人財バンク」は、ライフイベント等で社会の第一線から退いた本学OGを研究支援員として起用することで、専門性を活かした高度な支援を女性研究者に提供すると同時に、支援員となる本学OGにも、再チャレンジのきっかけを提供するという、双方にメリットのある仕組みとして考案されました。現在では、登録対象者を、社会の第一線で活躍する女性卒業生も含めた全ての本学OGとし、学内外からのさまざまな要望に応えられる工学系女性人財の情報バンクに成長しています。例えば、ご登録情報に基づいて、実務型教員として母校の教壇に立つていただく、あるいはロールモデルとして学内外のイベントにご協力いただくなど様々な活用実績があります。今後は、全てのOGの皆様それぞれにメリットが感じられるような女性技術者・研究者の人財情報共有コミュニティとして成長させていきたいと考えています。



## (5) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」

女子学生の少ない本学で、学科・学年を超えた女子同士のつながりを持つことや、女子のキャリアをサポートすることを主な目的として活動する女子学生団体です。理系女子のキャリアを考えるイベントと並行して、SAYA内でのメンバー同士の交流を深められる楽しい企画も行っています。



2018年度メンバー：合計51人

【学年別】 M2:1人 M1: 3人

B4:4人 B3:10人 B2:14人 B1:19人

【学科別】

生命・応用化学専攻・学科	: 17人	電気機械工学専攻・学科	: 17人
物理工学専攻・学科	: 3人	情報工学専攻・学科	: 3人
社会工学専攻・学科	: 10人	創造工学教育課程	: 1人

【主な活動内容】

- ・ボッシュ×彩綾 女性技術者交流会
- ・女性技術者交流会
- ・リケジョスイートーク
- ・アイシン精機×アドヴィックス バスツアー
- ・夏合宿 村田製作所企業訪問
- ・就活報告会
- ・SAYAスポーツ大会
- ・新入生歓迎会



## (6) 中高生の理系選択支援

愛知県主催の「いいかも！リケイ」理系女子応援事業に参加協力しました。本学では東亜合成株式会社との共同企画として、8月6日「暮らしを支える科学のチカラ」とのテーマで、生命・応用科学専攻永田研究室の協力のもと研究室見学とキャンパス案内を実施し、18人の女子中高生が参加しました。

研究室では、永田謙二教授による材料化学についての基本的な講義と、女子大学院生、学部生のサポートのもと歯科材料とUV樹脂の実験が行われました。研究室見学の後は、女子学生団体「彩綾～SAYA～」の協力により、学生食堂での昼食会、キャンパス案内を実施し、参加者は、在学生の生の声を熱心に聞いていました。

12月15日には、8月の大学・企業見学の成果発表会が愛知芸術文化センターにて開催されました。本学からはパネルディスカッションの一員として加野特任助教が登壇し、理系の進路に関心を持った参加者に向けて、工学分野に女性が進む意義について、ダイバーシティ推進の観点から話しました。女子中高生と保護者、学校関係者約230人が参加する中、理系進学の魅力を力強く発信する発表会となりました。



(1) 「OG人財バンク・鶴桜会」パンフレット

OG人財バンクのパンフレットをデザインを一新して発行しました。



(2) 『共に創る未来へ～名工大の女子学生・女性研究者からのメッセージ～』

本学の現役女子学生及び女子中高生を対象としたロールモデル集「共に創る未来へ 名工大の女子学生・女性研究者からのメッセージ」を発行しました（発行：ダイバーシティ推進センター 協力：キャリアサポートオフィス）

現役女子大学生に向け、工学系大学院進学や就職してからのキャリア形成についてロールモデル等を通じて案内するとともに、女子中高生に向け、工学系大学生活やその後の進学、キャリアについて掲載しているパンフレットです。

未だ少ない女子学生の工学系大学・大学院への進学のきっかけや不安解消、さらに、多くの女子学生が工学系の研究職の楽しさややりがい等を感じ、工学の担い手として、充実した未来を思い描くことができるよう、先輩（大学院生、技術者、研究者）のさまざまな活躍の様子を紹介しています。



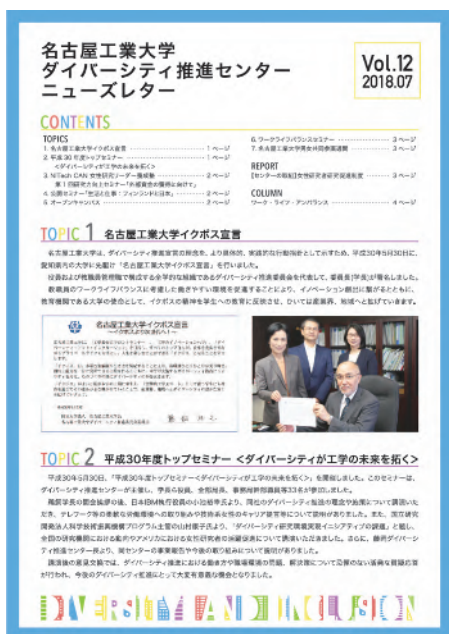
### (3) 『名古屋工業大学 女性研究者メンター制度 メンターハンドブック』

メンター教員に求められる役割とメンティ教員のニーズをQ&Aおよびインタビュー記事によって紹介し、メンタリング活動の具体的な指針を示すハンドブックを発行しました。女性研究者だけでなく、研究者のメンタリングに共通する論点を盛り込んでいます。



### (4) ニュースレターの発行

ダイバーシティ推進センターの取組の詳細を紹介するニュースレターを2018年7月、12月、2019年3月に発行しました。





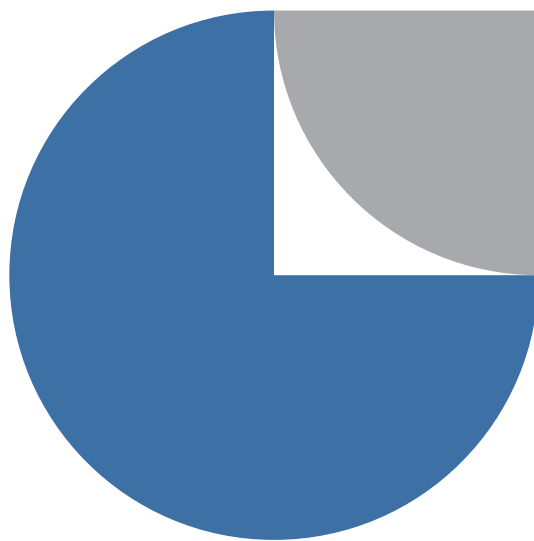
2017-22年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）


名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター  
2018年度 事業報告書

発行：国立大学法人 名古屋工業大学  
連絡先：名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町  
E-MAIL：diversity-crew@adm.nitech.ac.jp  
URL：https://www.nitech.ac.jp/diversity/index.html

2019年6月発行



 国立大学法人名古屋工業大学  
ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL/FAX : 052-735-5121

E-mail : [diversity-crew@adm.nitech.ac.jp](mailto:diversity-crew@adm.nitech.ac.jp)

U R L : <https://www.nitech.ac.jp/diversity/>